

「令和4年度 食育研修会（旧給食研究会）」報告書

- 【期 日】 令和4年7月1日（金）
【会 場】 アバンセホール
【主 催】 佐賀県保育会
【参加者数】 168名（集合53名・オンライン115名）
【内 容】 研修1 12:30～13:50

「令和4年度 給食研究発表」

〔発表者〕 鳥栖地区（かなさ保育園）
小城地区（小城市立小城保育園）
唐津地区（湊保育園）

講 評 講師 野口 孝則 氏（国立大学法人 上越大学大学院 教授）



研修2 14:30～16:30

「保育における食育と食事」

食育計画・実践・評価・改善

食への興味・関心を育む毎日の食事

講師 野口 孝則 氏（国立大学法人 上越大学大学院 教授）



研修1 「令和4年度 給食研究発表」

鳥栖地区（かなさ保育園） 栄養士 谷川 恵 氏

・かなさ保育園の食育紹介

食育指導、クッキング、お店屋さんごっこ等様々な活動を通し、あらためて園児職員も一緒になって活動を進めていく事の大切さを気付かされた。

職員間の連携をこれからも深めていく。また 個々の活動だけではなく、園全体をまきこみ大人も子ども楽しみながら「おいしい」がうまれるよう様々なことに挑戦していきたい。

小城地区（小城市立小城保育園） 調理員 三根 真由美 氏

- ・食を育む心と体～5年間の活動内容

小城市の保育所の調理従事者で構成している給食委員会では、小城市の小城市第3次食育推進計画「あーも！」計画にそった活動をしている。

近年、子ども達の「食」を取り巻く環境は著しく変化し、家庭環境の違いでの食生活の乱れが生じている。コロナ禍の中、園での行事をとおしての給食の試食等のアピールは難しい。その中でも私たちは、食生活の基本は家庭にあり、子ども達が健康な毎日を過ごすために知識を深め、情報を発信していく役割を担っていると考える。

唐津地区（湊保育園） 栄養士 井本 真由子 氏

- ・“食べる”を楽しむ～心が育つ食の大切さ～

食育活動を通して、食に興味関心を持ち、五感を育て、心も体も成長してほしいと取り組んでいる。楽しい食育を目指し、子どもと一緒に先生も楽しむことで、子どものワクワク感を引き出し、たくさんの体験を通して、心の豊かさを育み、食の大切さを学ぶことを目的とする。

食を楽しみながら、興味関心をもってくれたことは嬉しく思う。これからも子ども達の「おいしい」「楽しい」「わくわく」を一緒に共有しながら成長していきたい。

「講評」及び講義・質問

講師 野口 孝則 氏（国立大学法人 上越大学大学院 教授）

- ・小城市の小城市第3次食育推進計画「あーも！」計画 “あーも”の意味が手間がかかる面倒くさいこととある。それをあえて計画にいれていることがすばらしい。今の世の中は手間がかからないことを求めがち 食育こそもうひと手間かければ子どもにとってプラスになるからと考えてほしい。
- ・子どもたちのワクワク感をどういうところから確認することができるのかを考える。
- ・コロナ禍のクッキング どのようなことをさせてあげられるのか 加熱処理が後でなされるなら可能なこともでてくると考える。
「食育」は毎日の給食こそが、一番の食育と考える。小さいことの積み重ねが食育 コロナ禍がゆるんできたときに食べ方、食べる量、意欲がどうかわるか、子ども達の表情、会話がどう変化があるか研究してみたい。

研修2 「保育における食育と食事」

食育の計画・実践・評価・改善・食への興味・関心を育む毎日の食事

講師 野口 孝則 氏 (国立大学法人 上越大学大学院 教授)



◎食育の理解と食育計画

- ・食育の推進 ～生きる上での基本、豊かな人間性を育む～
- ・食育目標～「5つの子ども像」と「食育の5項目」
- ・平成30年改訂指針における食育
「食育の推進の更なる充実が図られた」「保育所の特性を生かした食育」
「食育環境の整備」「保育の計画及び評価」
- ・乳児・小児への配慮～成長曲線を参照し、成長の程度を確認する～

◎子どもの育ちを支える食 ～保育所等における「食育」の言語化

全国保育士会のHPより

トップページ→パンフレット・報告書・チラシ→子どもの育ちを支える食

- ① 資料をダウンロード ②第2章 (p13～44) ③自演の取り組みとの比較

◎食事摂取基準を活用した食事計画

- ・「食事摂取基準」を活用した食事計画～食事計画の基本的考え方～
- ・食事計画策定に当たっての留意点～食事摂取基準を活用する～

◎保育所における食育の評価

- ・食の提供における質の向上のためのチェックリスト
- ・食の提供における質の向上のための評価のポイント

◎保育の食育の推進・充実にむけて

- ・食育の実践を通じて「保育の質」を高める

【感想】

講師の先生の、毎日の給食こそが「食育」の中心であるという言葉が印象に残った。

「記録をとる」「計画等が、やりっぱしになってないか」「子どもががんばる前に大人ががんばることでプラスになることもでてくる」等考えさせられるいい機会になった。日頃から、コロナ禍の中でもそうでなくても子どもの育ちを考え毎日食育に取り組んでいるが、これからも栄養士、調理員、保育者、園長、主任それぞれの専門性を活かしながら、毎日の食事の時間を大切に生きる力の基礎を一緒に築いていく。

(文責 こぼと保育園 江里口 真利呼)